

日本地球電気磁気学会会報(第79号)

1978年9月18日

日本地球電気磁気学会

連絡先 東京都文京区弥生2-11-16 (〒113)

東京大学理学部地球物理学教室内

電話 03-812-2111 (内線6476)

I. 第64回総会ならびに講演会について

秋の学会は、10月17日(火)から20日(金)まで、東北大学松下会館で開催されます。

今回の総会には、下記Ⅱ、Ⅲで予告する重要議題が提案されますので、できるだけ多数の会員の皆様が出席され、討論に参加して下さいようお願いいたします。

総会に欠席される方は、必ず委任状をお出し下さい。

Ⅱ. 会費値上げについて

春の総会で、佐藤運営委員から報告があり、また、前号(第78号)会報に記載しましたように、本学会の財政は年々悪化し、昨年度決算では、ついに10万円余の赤字をだしました。本年度予算では、支出を極力押えたにもかかわらず、次期繰越金を減らすという形の赤字が、約65万円見込まれています。

この赤字対策については、運営委員会で何度も議論しましたが、会員を唯一の収入源とする当学会では、結局、会費値上げに踏み切らざるを得ないという結論に達しました。

会費額は、学会規約第7条で定められていますので、下記の規約改正案を総会に提案します。

規約改正案

「第7条 会員は次の会費を納入しなければならない。

- 一 正会員は年額4,000円、但し正会員中、学生の身分のあるもので所定の手続きを経たものは年額2,500円とする。」

の下線部をそれぞれ「6,000円」、「4,000円」と改める。

なお、外国会員会費及び外国機関によるJGG購読料は為替レートの変動を考慮して別に定める。

Ⅲ. 学会名、学会誌名変更について

当学会が対象とする研究分野、研究方法は、近年、飛躍的にひろがり、地球電気磁気学会という

名前が最適であるとは言えなくなってきました。学会誌の名称 (Journal of Geomagnetism and Geoelectricity) についても、同様のことが言えます。

運営委員会では、昨年実施した JGG アンケートの中で、学会誌名についての会員の皆様のご意見を調査しましたが、この際、学会名、学会誌名ともに変更した方がよとの結論に達し、下記原案を総会に提出することになりました。

より適当な代案がありましたら、あらかじめお考えのうえ提案し、活発に討論して下さるようお願いいたします。

なお、学会名は学会規約第 1 条に規定されているので、規約を改正することになります。

規約改正案

「第 1 条 本会は日本地球電気磁気学会 (Society of Terrestrial Magnetism and Electricity of Japan) という」

の下線部を「地球惑星空間学会 (Japan Society of Earth, Planet and Space) 」とする。

会誌名変更案

新会誌名を “ Earth, Planet and Space ” とする。

IV. 科研費総合研究申請の調整について

今まで関係有志の方に集まっていたいで行なっていました科研費総合研究申請の調整を、今年度から運営委員会が行なうことになりました。このための informal meeting を秋の学会開催中に開きますので、関係者はご参加下さい。

V. 講演会予稿集前渡しについて

下記の条件が満された場合、予稿集の前渡しを行いません。ご希望の方は、京大理 荒木 徹までお申込み下さい。

- (1) 10 部以上の部数を、世話人が一括して注文する。
- (2) 代金は世話人が集め、講演会開催中にまとめて支払う。

なお、予稿集は講演会 2 週間前までに印刷できる予定です。

VI. 「電子および原子衝突の物理学に関する第 11 回国際会議」開催のお知らせ

下記要領で標記の国際会議が開催されます。詳細についてお知りになりたい方は高柳和夫会員 (東大宇宙研) にお問い合わせ下さい。

なお、当学会はこの国際会議の後援団体の一つになっております。

会議英語名 The Eleventh International Conference on the Physics of
Electronic and Atomic Collisions (略称XI-ICPEAC)

期 日 1979年8月29日-9月4日(7日間)

会 場 京都市 国立京都国際会館

主 催 者 日本学術会議, 原子衝突研究協会
国際的には国際純粋応用物理学連合(IUPAP)

主要テーマ 電子と原子の衝突, 電子と分子の衝突, 分子衝突, 化学反応
中間エネルギーでの重粒子衝突,
内殻電離現象, 準分子X線発生,
光電離, 光解離, 多光子過程,
原子衝突による電子状態の配向・整列・コヒーレンス,
非弾性衝突における電子・光子同時計数実験,
高励起状態にある原子・分子の関与する衝突,
いわゆる post-collision interaction,
理論の諸方法の最近の進歩, 実験技術の最近の進歩,
関連分野における原子衝突。

VII. (財)東レ科学振興会より東レ科学技術賞および東レ科学技術研究助成の募集案内がきています。
募集要項は以下の通りです。

第19回 (昭和53年度)
東レ科学技術賞候補者推薦要領

昭和53年7月

1. 候補者の対象………貴学協会に関する分野で、下記に該当するもの
 - (1) 学術上の業績が顕著なもの
 - (2) 学術上重要な発見をしたもの
 - (3) 重要な発明をして、その効果が大きいもの
 - (4) 技術上重要な問題を解決して技術界に貢献するところが大きいもの
2. 科学技術賞………1件につき本賞：金メダル・副賞：250万円(2件以内の予定)
3. 候補者推薦件数………1学協会から2件以内
4. 推 薦 者………学協会の代表者
5. 推 薦 手 続………所定の推薦書用紙に必要事項を記載し、本会宛1部ご送付願います
6. 推薦締切期日………昭和53年11月15日

7. 選考方法………下記委員からなる選考委員会を設けて選考し、評議員会において受賞者を決定します

選 考 委 員 (順不同)

委員長	吉 識 雅 夫			
	森 野 米 三	榊	米 一 郎	
	上 野 良 二	水 野 伝 一		
	五 弓 勇 雄	下 郡 山 正 巳		
	小 田 稔			

8. 科学技術賞の贈呈…昭和54年3月の予定

第19回 (昭和53年度)

東レ科学技術研究助成候補者推薦要領

昭和53年7月

1. 候補者の対象………貴学協会に関する科学技術の基礎的な研究に従事し、その研究の成果が科学技術の進歩、発展に貢献するところが大きいと考えられる研究を行っている研究者、またはそのグループ
2. 研究助成金………総額1億円前後、1件1,000万円程度としますが、あまりこの額にとらわれる必要はありません
3. 候補者推薦件数………1学協会から3件以内
4. 推 薦 者………学協会の代表者
5. 推 薦 手 続………所定の推薦書用紙に必要事項を記載し、本会宛1部ご送付願います
6. 推薦締切期日………昭和53年11月15日
7. 選考方法………下記委員からなる選考委員会を設けて選考し、評議員会において決定します。

選 考 委 員 (順不同)

委員長	吉 識 雅 夫			
	森 野 米 三	榊	米 一 郎	
	上 田 良 二	水 野 伝 一		
	五 弓 勇 雄	下 郡 山 正 巳		
	小 田 稔			

8. 研究助成金の贈呈………昭和54年3月の予定

推薦ご希望の方は研究助成については学会事務所あて、科学技術賞については学会委員長あてに書面でお申込み下さい。

VIII. 新 入 会 員

前回会報記載後の新入会員は以下の通りです。

石田 喜雄 (福島大) 平島 洋 (立教大) D. A. Clanter (Univ. of Pittsburgh)

Ⅸ. 東京大学宇宙航空研究所 助手公募

- (1) 公募人員 助手1名
- (2) 専門分野 宇宙分子過程理論：惑星大気・彗星大気・星間分子雲などにおける分子過程の理論的研究。当研究所は共同利用研であり、研究外の仕事をある程度担当することを含んでおいていただきたい。
- (3) 着任時期 遅くとも1979年4月
- (4) 応募資格 これ迄の研究歴には必ずしもこだわらない。着任時には博士号を持つか持つ見込であることが望ましい。
- (5) 提出書類 ①自薦の場合 履歴書，論文リスト（主要論文別刷），上記分野に関する抱負（異なる分野からの場合は詳しく）。本人について意見を求めることのできる人2名以上の名前。
②他薦の場合 略歴，論文リスト（主要論文別刷）推薦書2通。
- (6) 公募〆切 1978年12月25日（月）必着
- (7) 宛 先 〒153 東京都目黒区駒場4-6-1
東京大学宇宙航空研究所所長 森 大吉郎
- (8) 連絡先 同上 電話 467-1111 内線440 清水 幹夫
- (9) 注意：封筒に「公募書類在中」と朱書し，書留で郵送のこと。